

平成20年度

コミュニティバス等（町内循環バス等）導入に関するアンケート調査

集計結果

平成21年1月

七飯町地域公共交通活性化協議会事務局

## ●調査の目的

コミュニティバス等「以下CBと呼ぶ」導入に関する検討を進めるにあたり、七飯町民のCB導入に関するニーズを探るため、昨年の調査内容を踏まえつつ、以下に示す項目について調査を行った。

## ●調査の概略

【H19調査】→調査目的:移動に伴う交通手段の現状把握

【H20調査】→調査目的:現状交通における満足度とCB導入に対するニーズ調査

- ①回答者の基礎的情報(住まい・年代・性別・職業・自由に使える交通手段)
- ②現在利用している交通手段とその満足度
- ③CB導入に関する賛否とその理由
- ④CB導入に望ましいと思われる路線概略計画の選択
- ⑤CB導入に伴う金銭的な支援策と負担額

## ●調査結果から把握できること

- ①現行の公共交通利用に対する満足度合い
- ②CB導入に対する賛成度合い
- ③金銭的支援に対する賛同の度合い
- ④その他 路線概略計画に関わる町民の要求傾向

## ●調査の方法と回収結果

- ①調査対象:七飯町民(20歳以上の成人)
- ②調査時期:平成20年10月下旬から平成20年12月中旬(説明会・配布・回収日含む)
- ③調査方法:標本調査
- ④配布方法:町内会の協力による抽出(世帯単位)と訪問配布
- ⑤必要サンプル数:1,500通
- ⑥回収サンプル数:1,938通(配布数:2,125通,回収率91.2%)

## ●集計方法

- ①全体集計
- ②地区別集計(大川・大中山地区,本町地区,藤城・峠下地区,大沼地区)

## ■回答者の属性(全体)

### ●年層

~20代	1%
30~40代	19%
50~60代	43%
70~80代	36%

※少数第1位四捨五入

### ●男女比

男	女
48%	51%

※少数第1位四捨五入

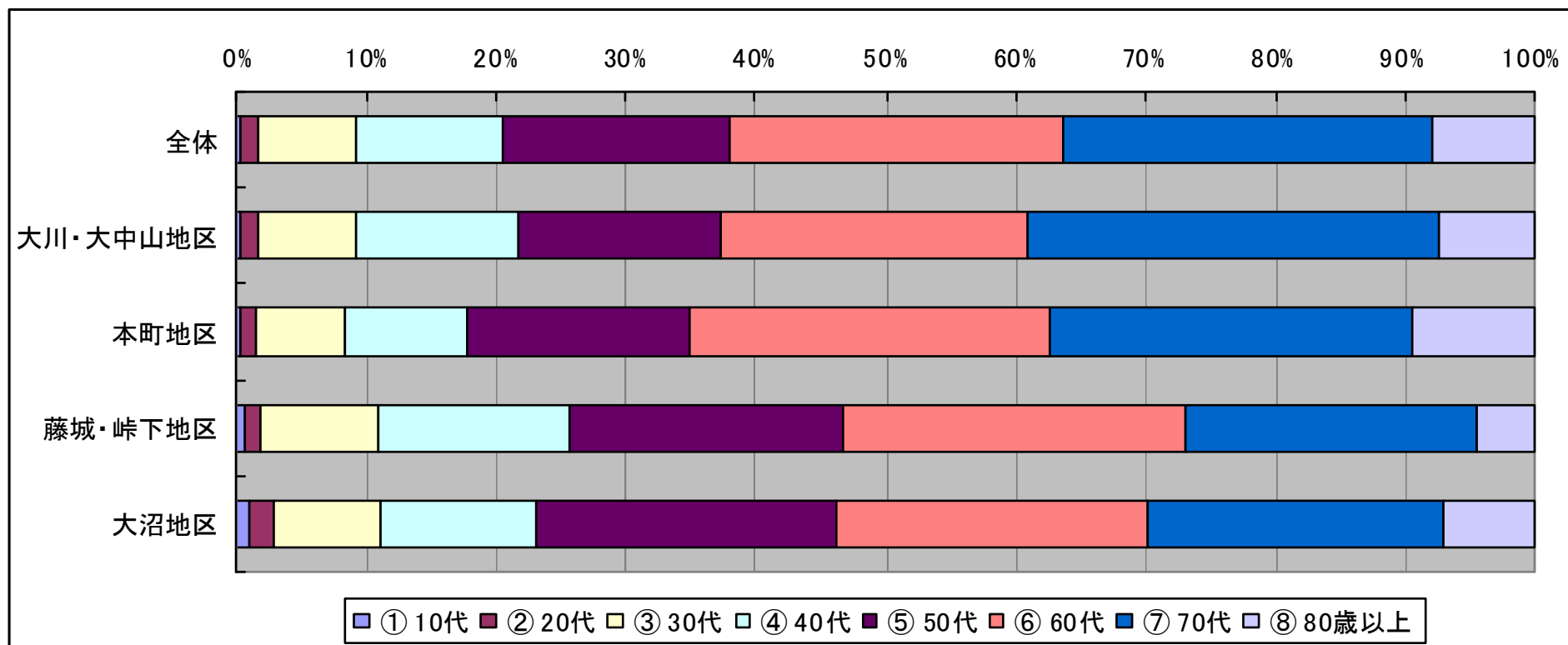
### ●職業

無職	42%
専業主婦	19%
会社員・公務員・団体職員	13%
パート・アルバイト	10%
自営業	6%
有職の主婦	4%
農林漁業	3%
派遣・契約社員	1%
学生	0%
その他	1%

※少数第1位四捨五入

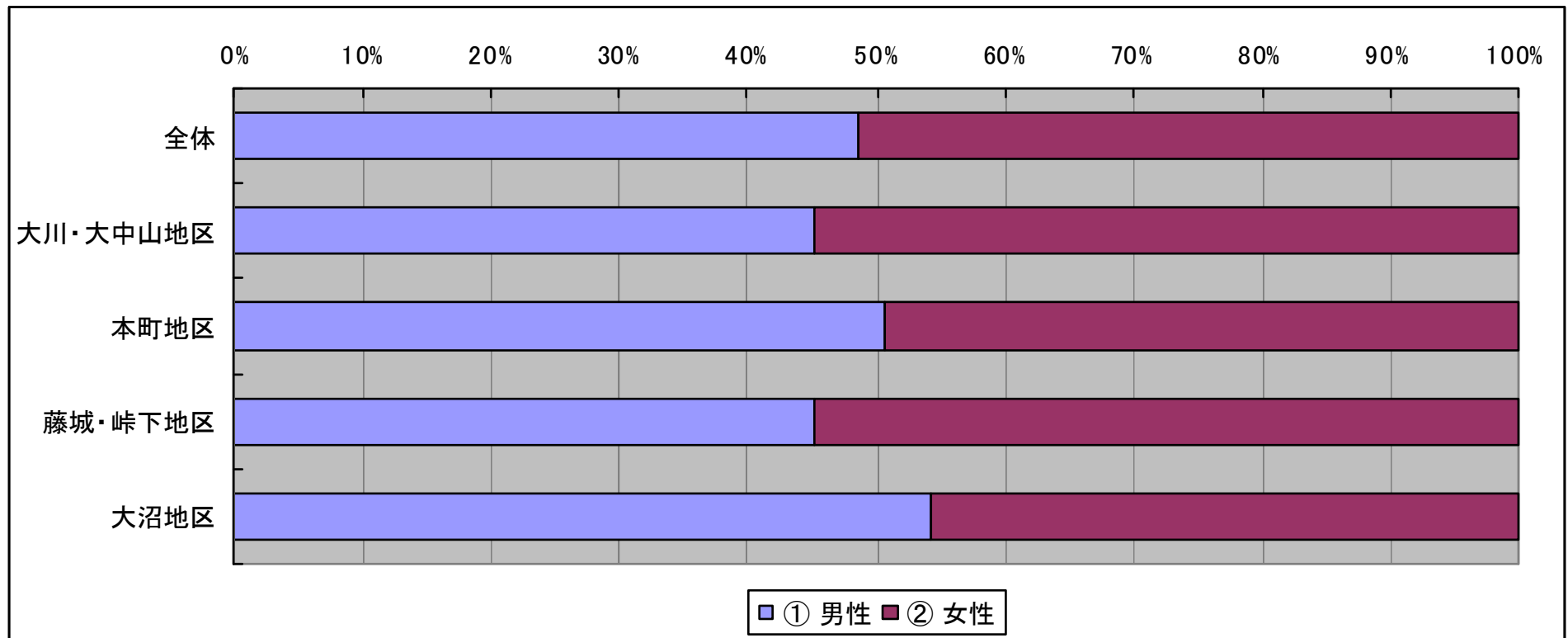
## ■ 年齢構成比

- ・ 50代以上の方が約8割を占めた。
- ・ 若年世代(20代、30代、40代)は、2割程度であった。



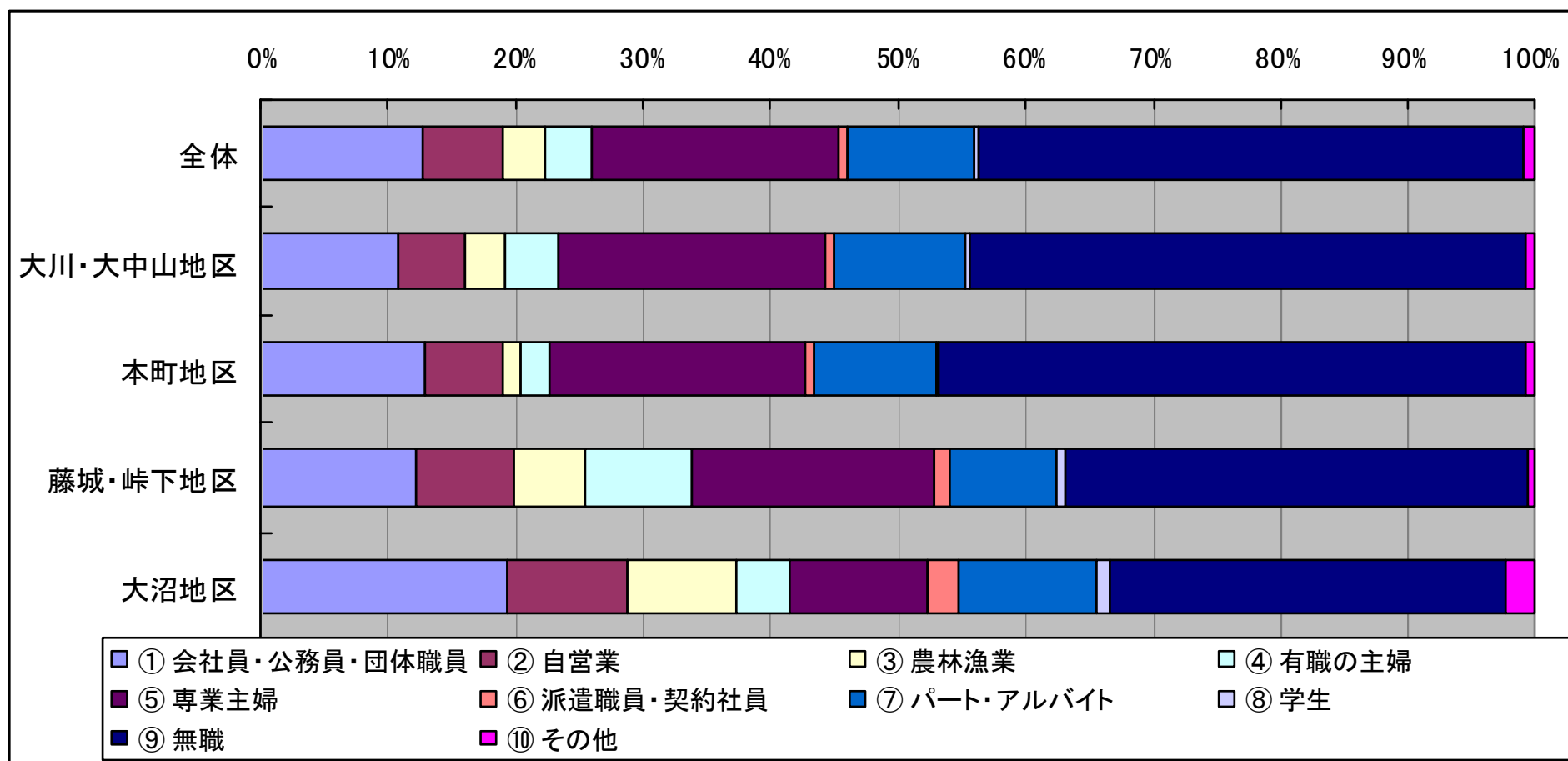
## ■男女比

- ほぼ半々であった。



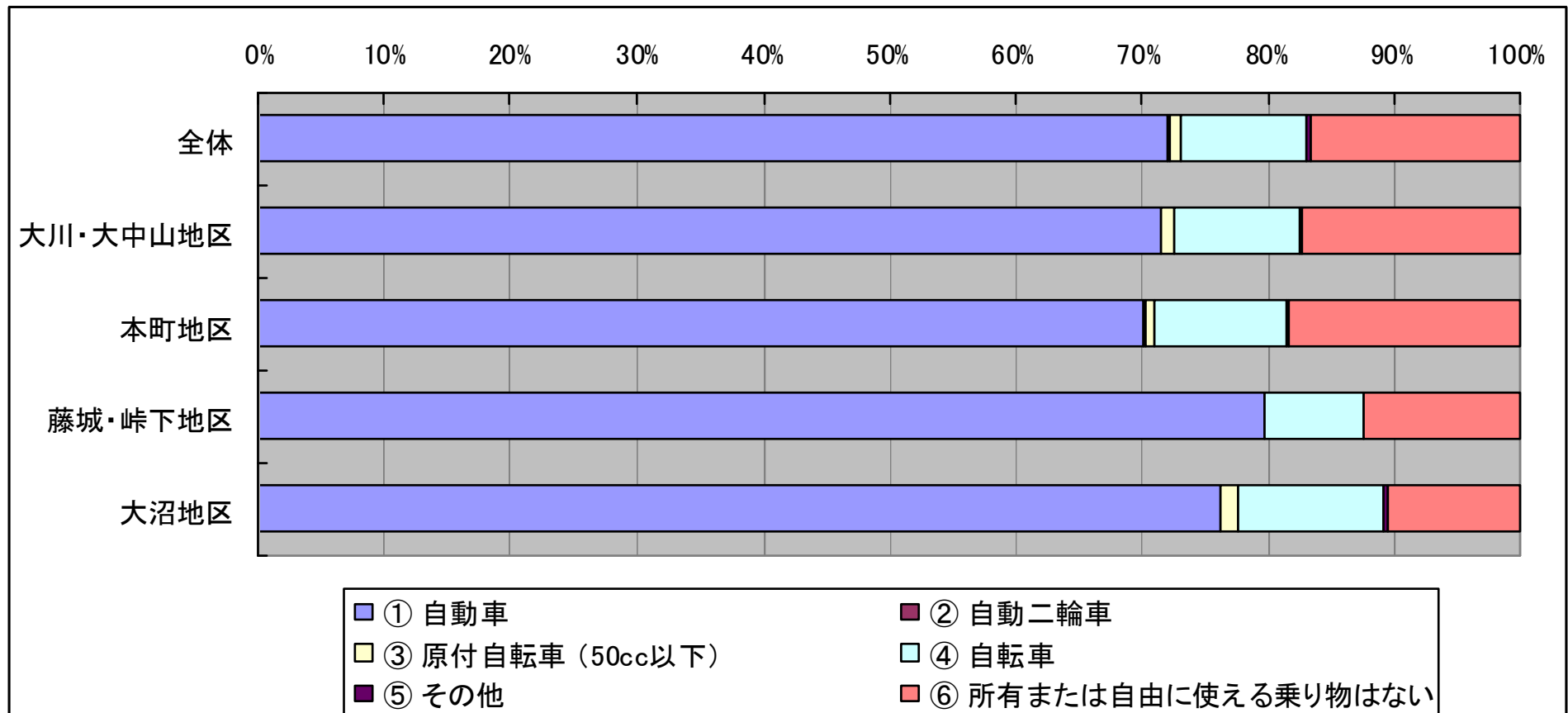
## ■ 職業比

- ・ 無職が約4割で最も多く、次いで専業主婦が約2割、会社員(公務員・団体職員含む)とパート・アルバイトがそれぞれ約1割であった。



## ■個人が自由に使える乗り物について

- ・ 自動車を自由に使える方が7割強で非常に高い。
- ・ 自由に使える乗り物を持たない方が2割弱いる。
- ・ 藤城・峠下地区と大沼地区の自動車保有は他の地区よりやや高め。

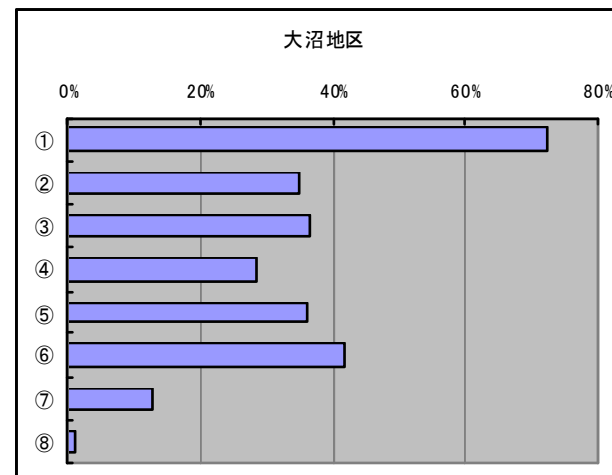
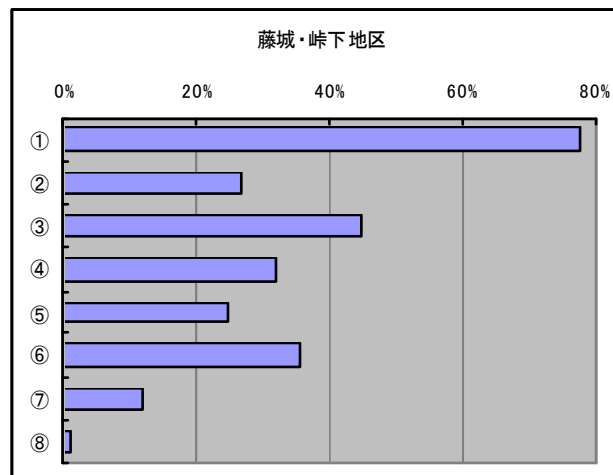
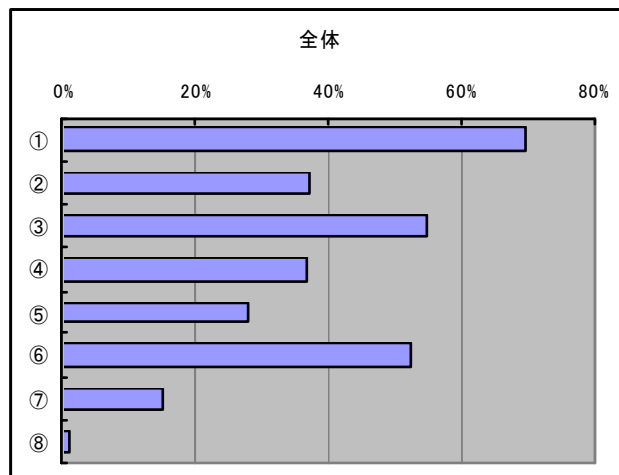
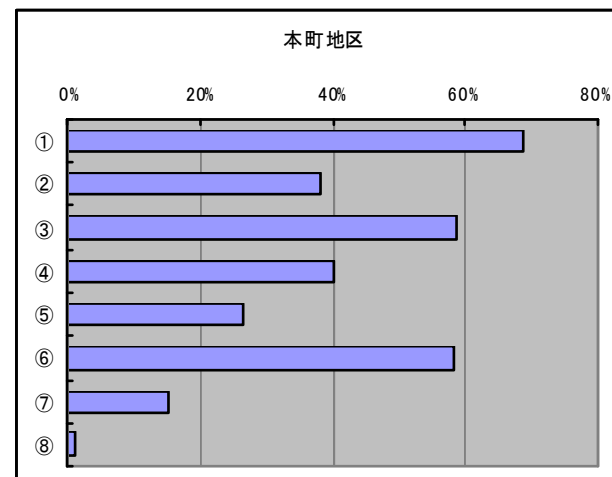
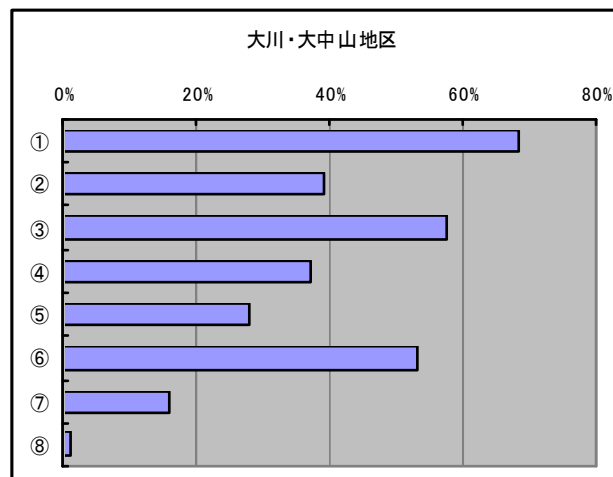




## ■ 日常生活で利用している交通手段(複数回答)

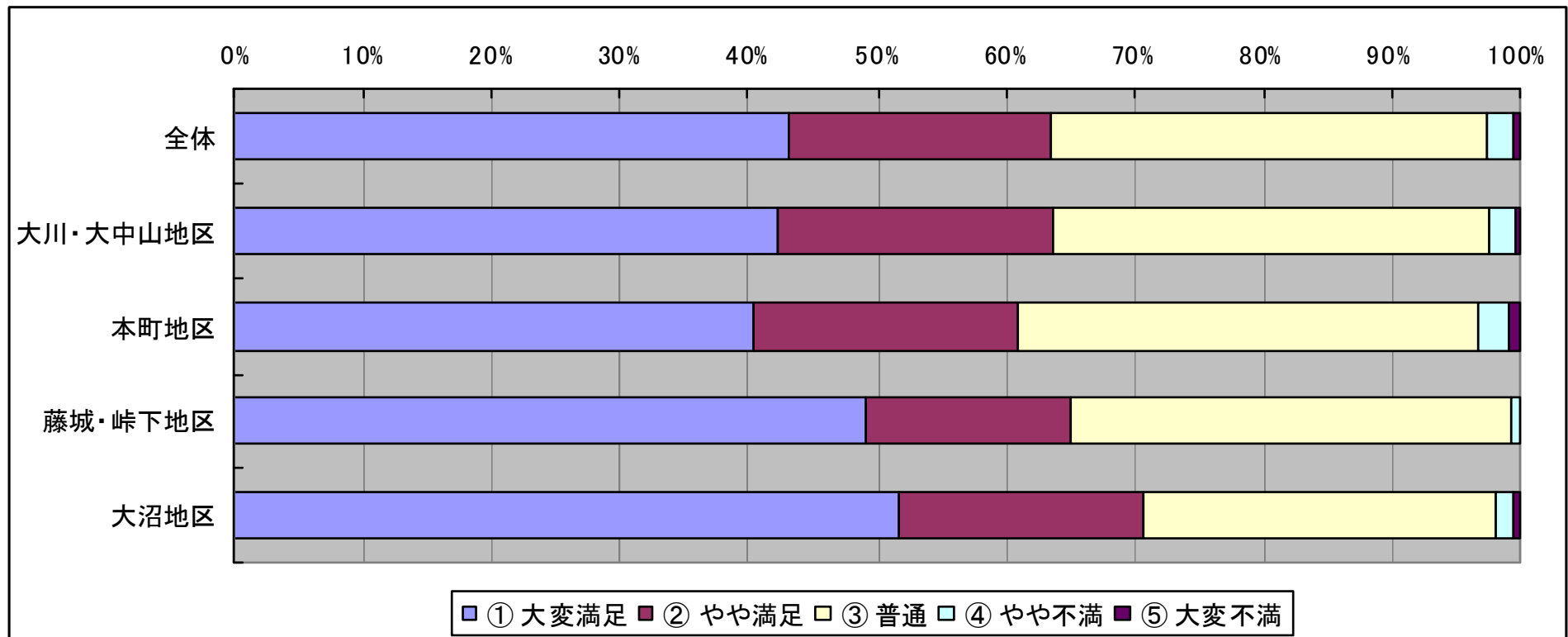
- ・ どの地区も自動車利用が約7割となっている。
- ・ 大川・大中山地区と本町地区は、公共交通＋徒歩の組み合わせによる利用が他の地区より高いと思われる。
- ・ 藤城・峠下地区と大沼地区は、他の地区より公共交通利用者が少ない。

①	自動車(ご自身で運転している) ※自動二輪や原付自転車含む
②	自動車による送迎(家族や知人が運転)
③	公共交通(JRや函館バス)
④	タクシー
⑤	自転車
⑥	徒歩
⑦	その他
⑧	移動することがほとんどない



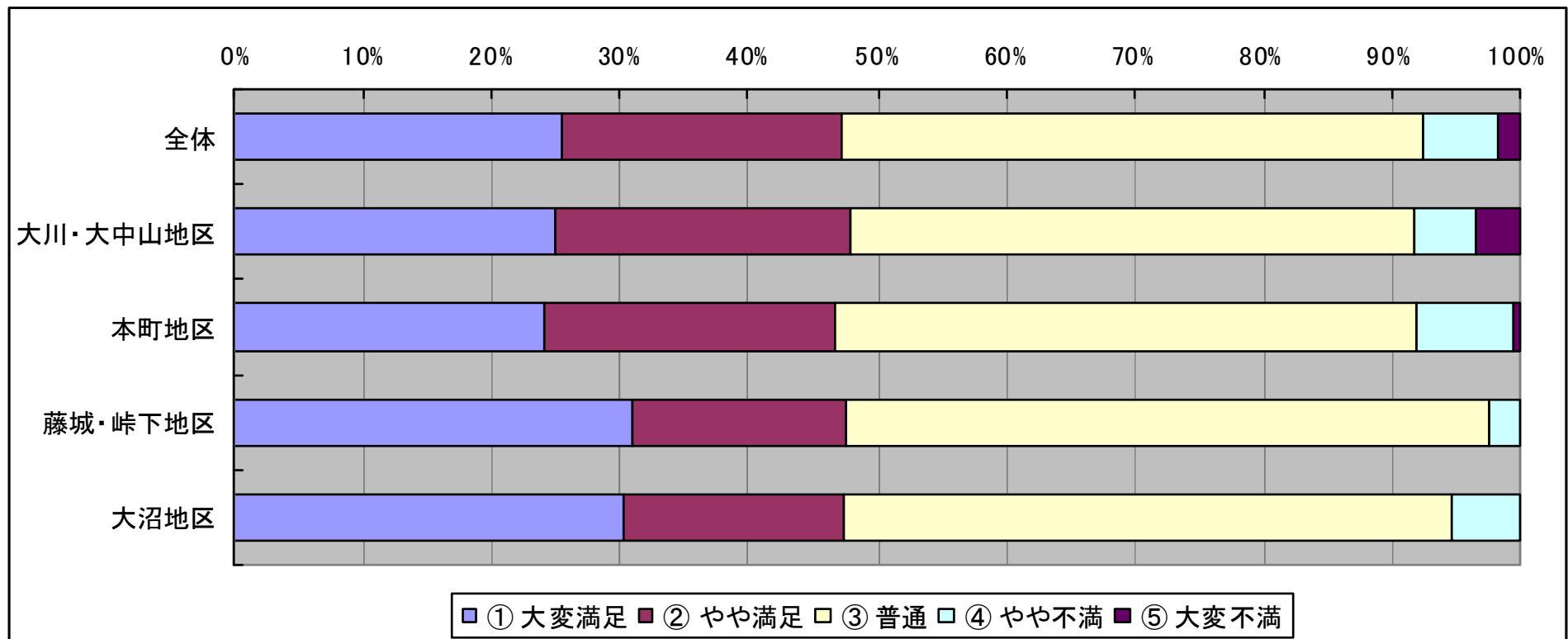
## ■自動車(自分で運転)利用者の満足度

- ・ 不満を持っている方は少なく、満足度合いが非常に高い。(利便性が高い)



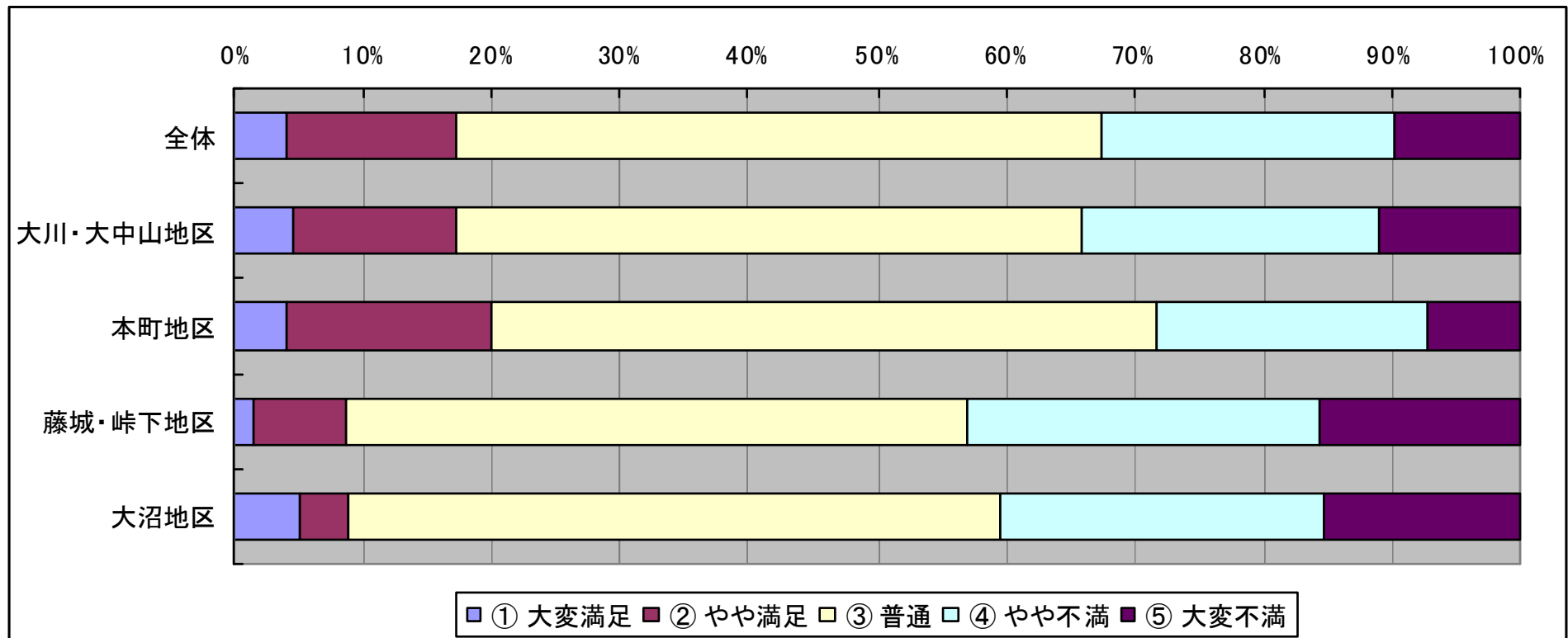
## ■自動車による送迎(家族や知人が運転)を受けている方の満足度

- ・ 不満を持っている方は1割に満たない。(利便性が高い)



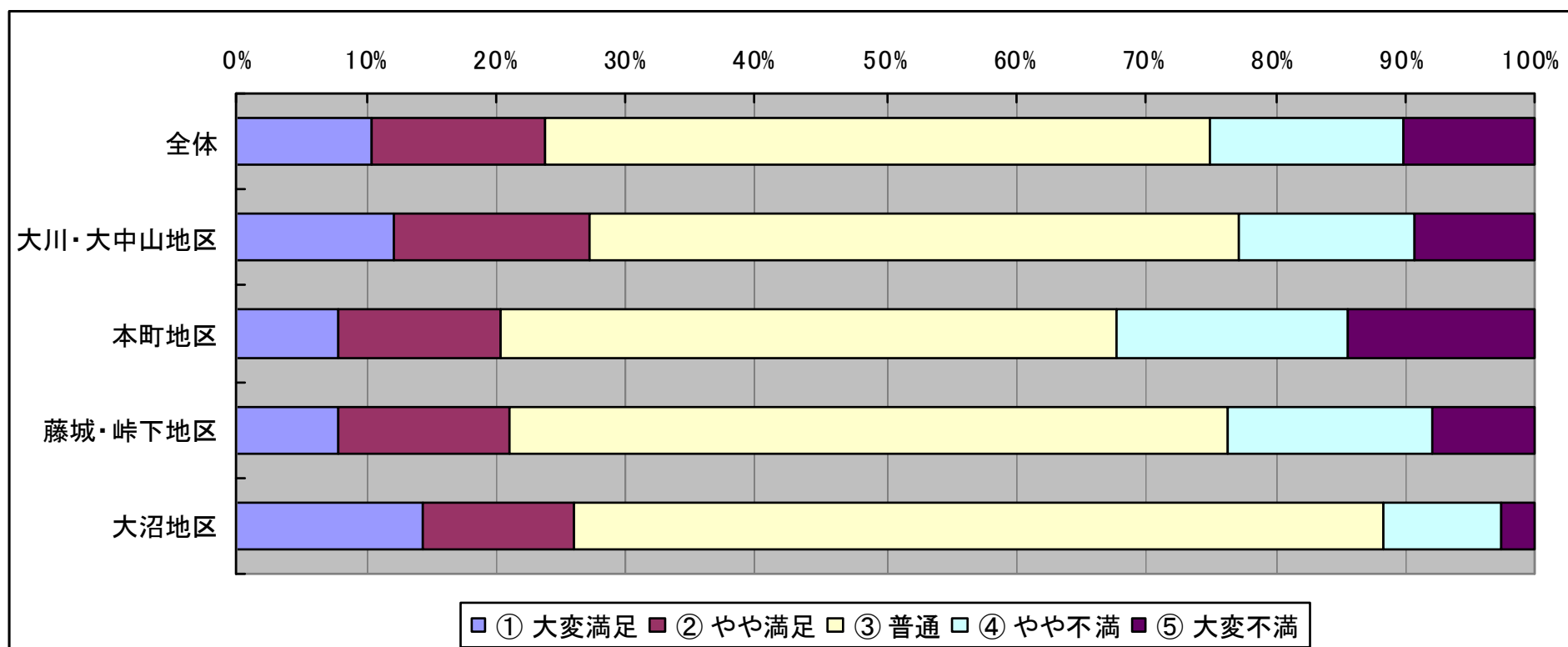
## ■公共交通（JRや函館バス）利用者の満足度

- ・ 不満を持っている人が3割強となっている。（利便性がやや低い）
- ・ 藤城・峠下地区と大沼地区の不満足合いが他の地区より高い。



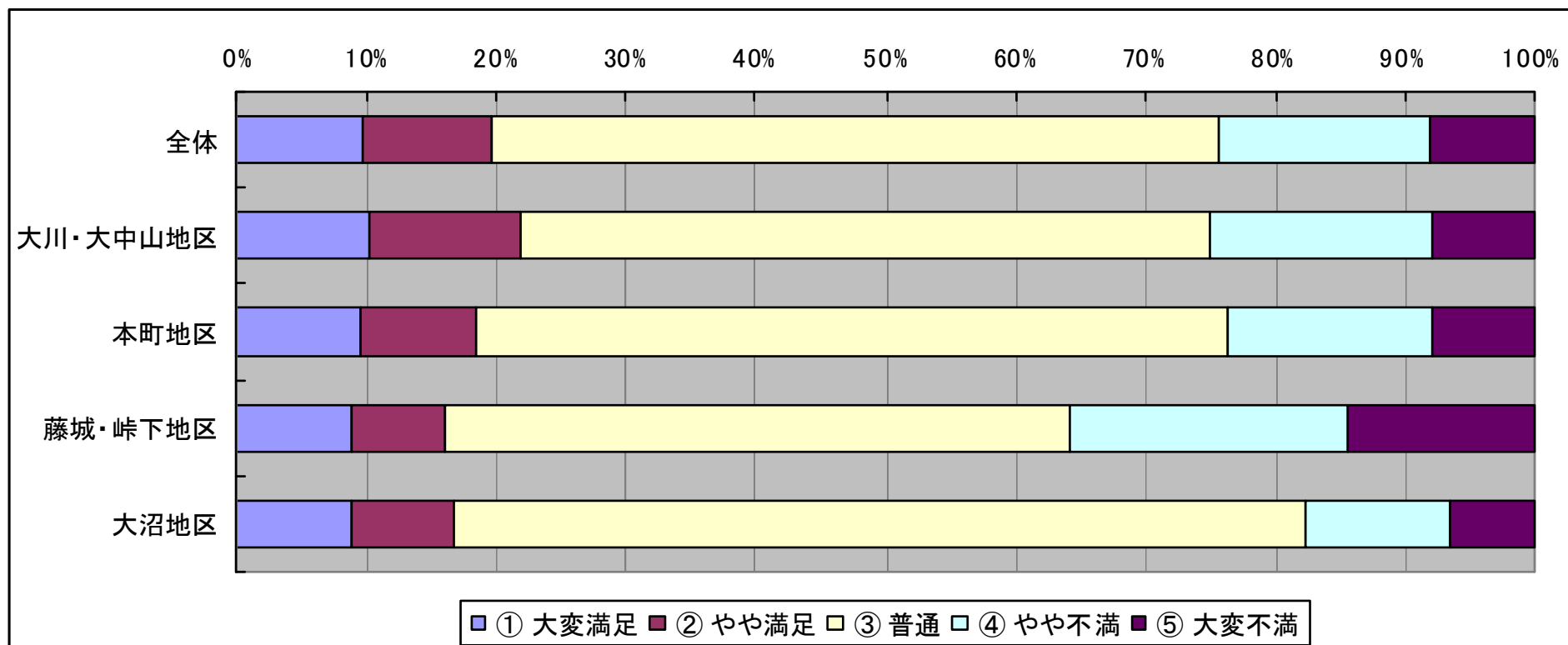
## ■自転車利用者の満足度

- ・ 不満を持っている人が3割弱となっている。(利便性がやや低い)
- ・ 大沼地区の不満足度合いが他の地区より低い。(地区内を移動する乗り物としては不便がないのでは)



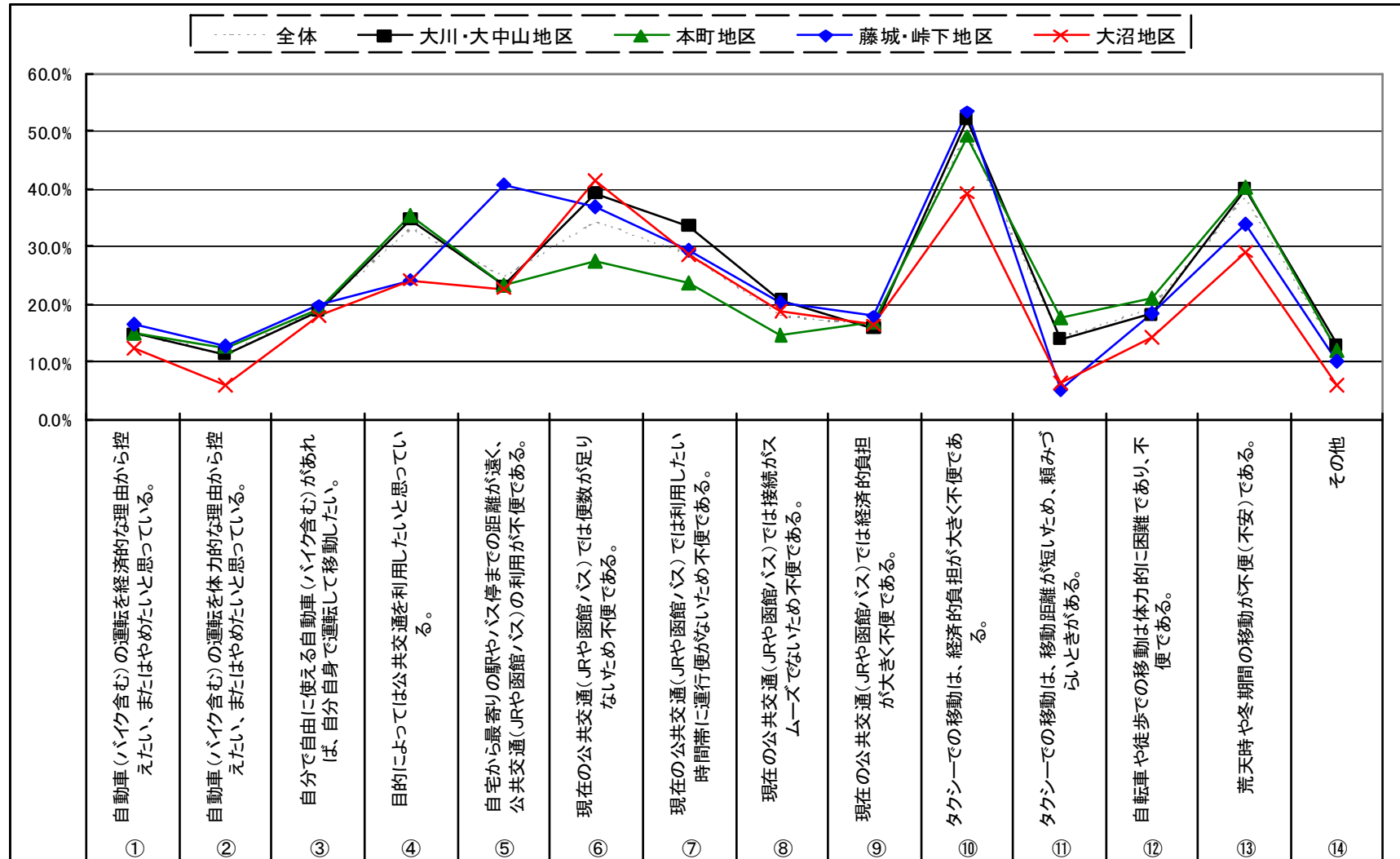
## ■ 徒歩移動者の満足度

- ・ 不満を持っている人が3割弱となっている。
- ・ 藤城・峠下地区の不満足度合いが他の地区より高い。(公共交通を利用する際の徒歩移動に不満を感じていると思われる。)



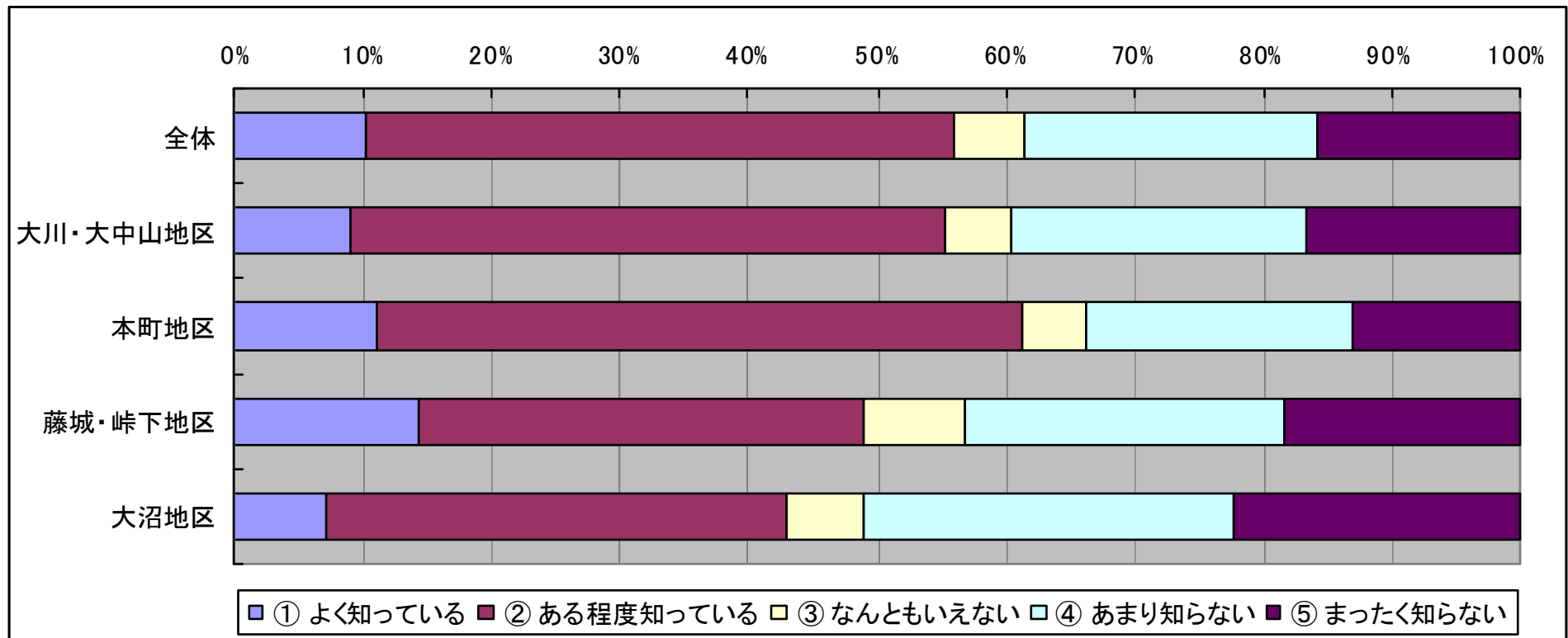
## ■現在利用している交通手段に対する意識について(複数回答)

- ・ 大川・大中山地区、本町地区は、目的に応じて公共交通を使いたい方が多い。
- ・ 本町地区は、公共交通の不便さをあまり感じていない。
- ・ 藤城・峠下地区は、駅やバス停までの距離を遠く感じている。
- ・ 大沼地区は、公共交通の便数不足を感じている。
- ・ 全体としてタクシー利用は経済的に負担と感じている。



## ■コミュニティバスの認知度

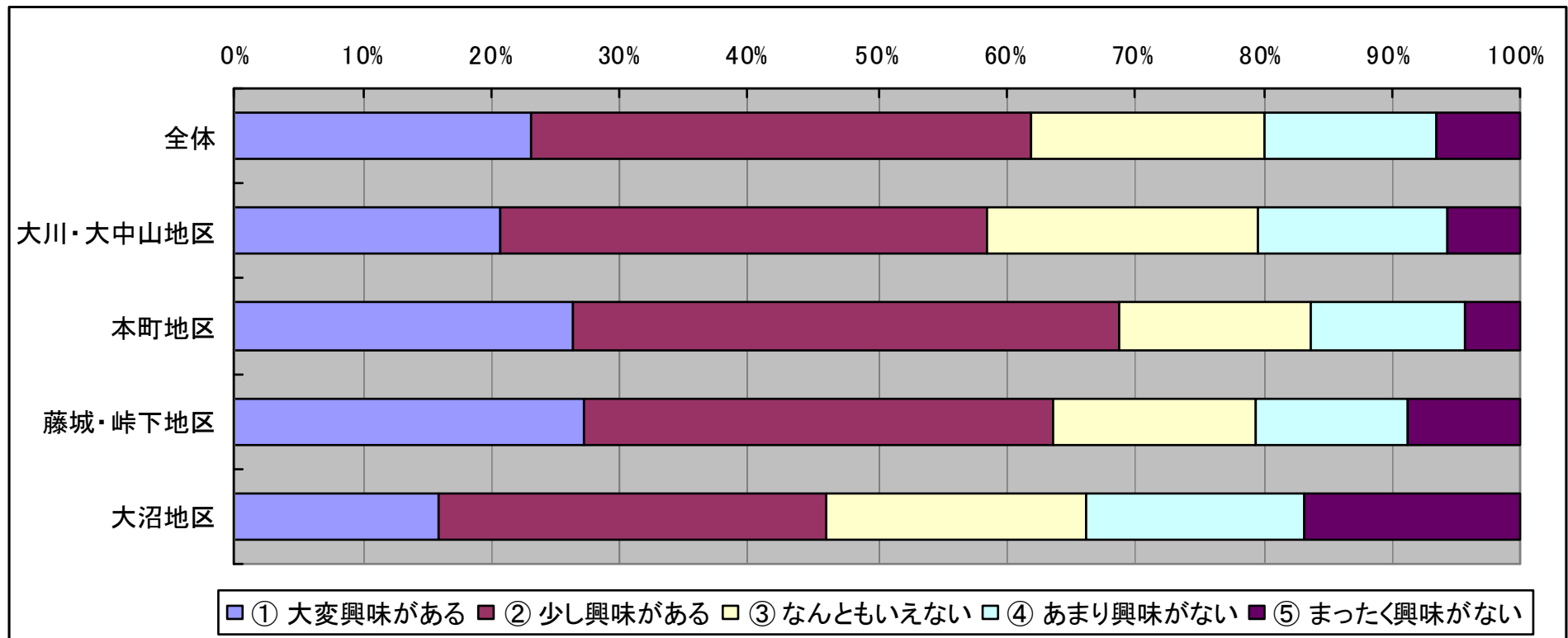
- ・ 半数以上が、ある程度知識を持っている。
- ・ しかし、知識のない方も半数近くいる。





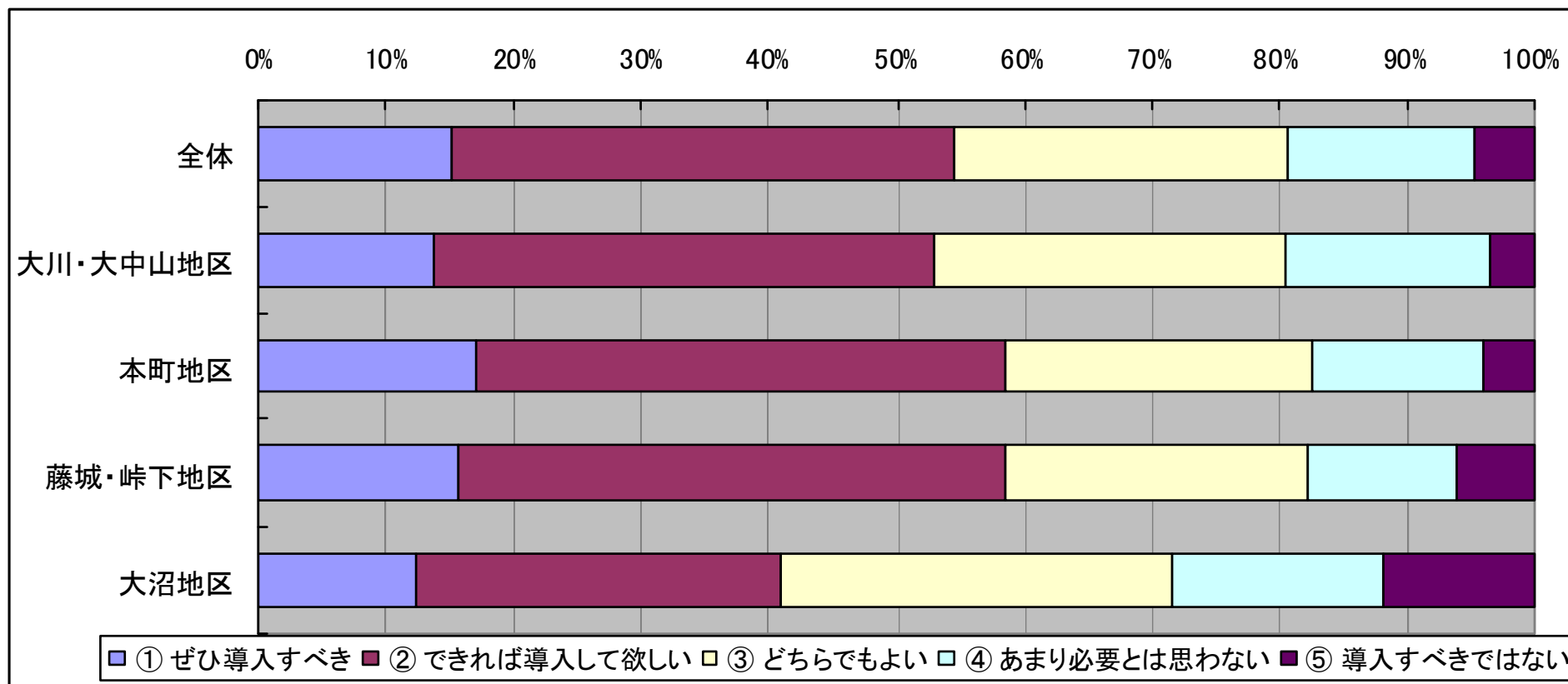
## ■ コミュニティバスへの興味・関心について

- ・ 6割強の方が関心を示している。
- ・ 大沼地区は、他の地区と比較して興味・関心が低い。



## ■コミュニティバスの導入に関する賛否について

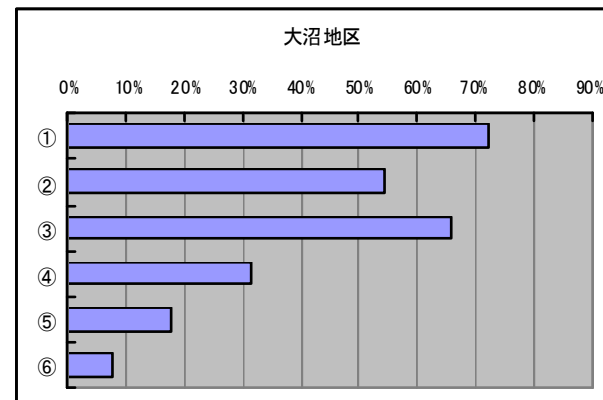
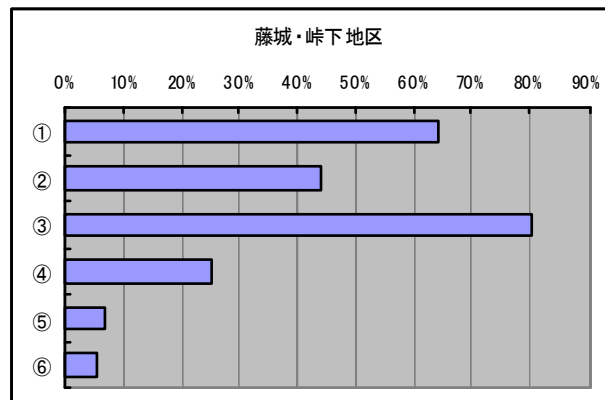
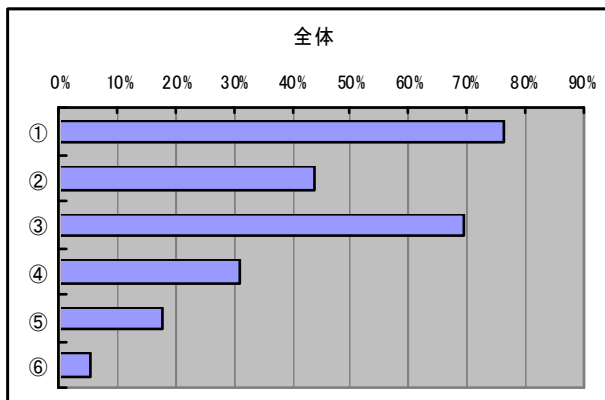
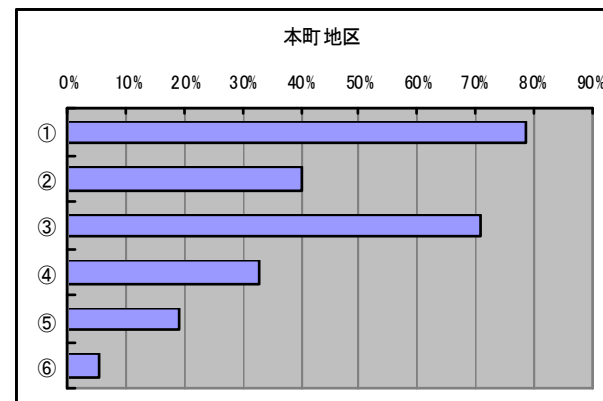
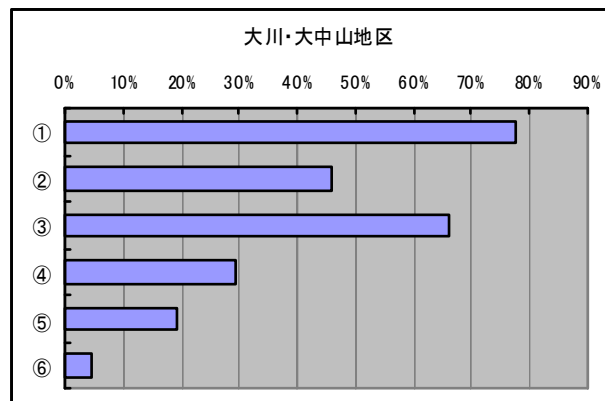
- ・ 賛成派が5割強、反対派は、2割弱である。
- ・ どちらでもよいが3割弱存在する。(必要性を強く感じていない層では)
- ・ 大沼地区の賛成派は他の地区より少ない。



## ■コミュニティバスの導入に賛成と答えた方の理由(複数回答)

- ・ 自分自身が利用したい(将来利用したいも含む)が7割強である。
- ・ 将来、地域にとって必要と思っている方が約7割である。

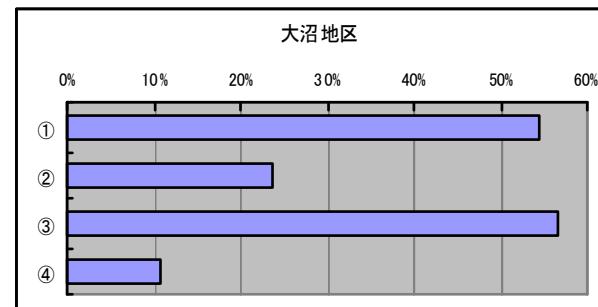
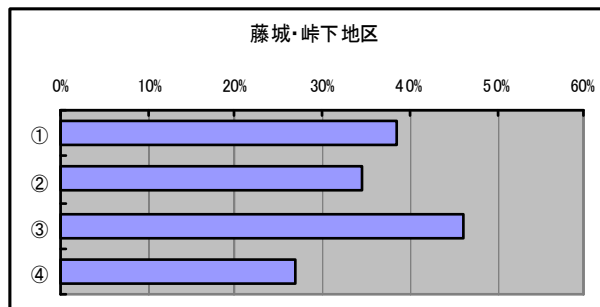
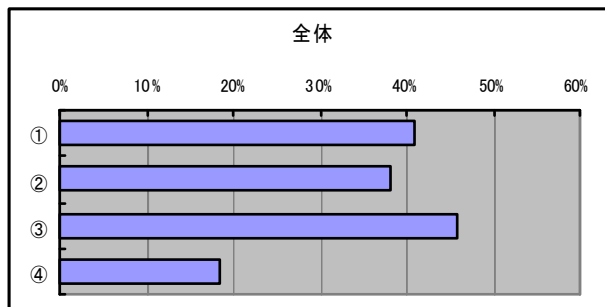
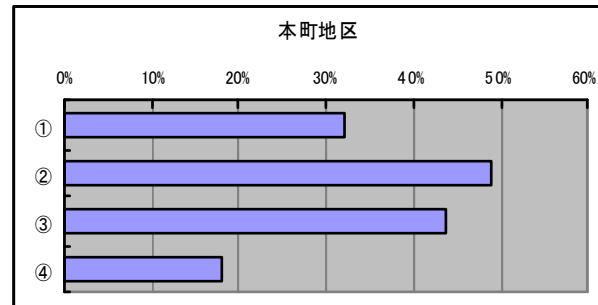
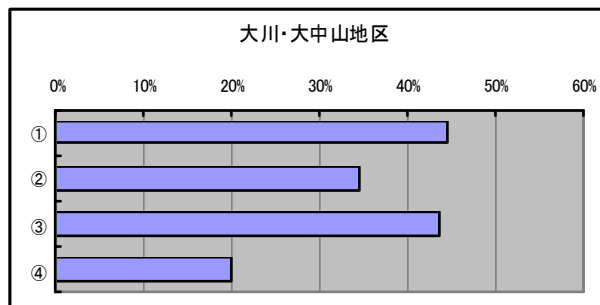
①	自分自身が利用したいから (将来利用したいも含む)
②	現在の公共交通(JRや函館バス)では不便を感じるから
③	地域の将来を考えると必要な交通手段だから
④	必要としている家族がいるから
⑤	自動車運転免許がないから (免許を取得する予定がないも含む)
⑥	その他



## ■コミュニティバスの導入に反対と答えた方の理由(複数回答)

- ・ 自分自身が利用しない(将来も利用しないも含む)が4割強である。
- ・ 将来、地域にとって必要性を感じないが4.5割。
- ・ 大沼地区は、利用しない又は将来も必要ないとする方が他の地区より多い。

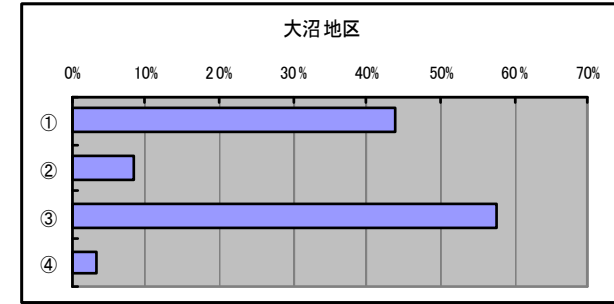
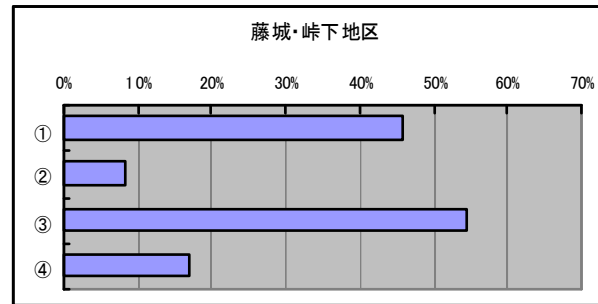
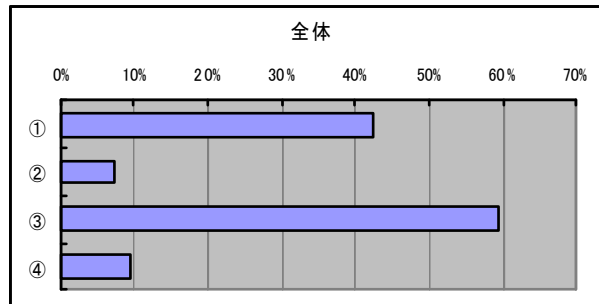
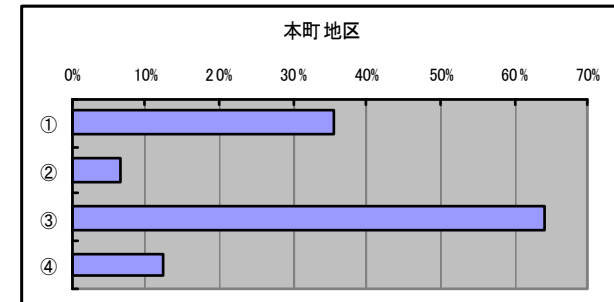
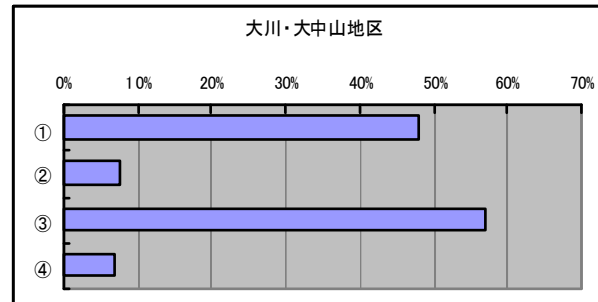
①	自分自身が利用しないから(将来においても利用するつもりはない)
②	現在の公共交通(JRや函館バス)で十分だと思うから
③	地域の将来にとって必要な交通手段だとは思わない
④	その他



## ■ どちらでもよいと答えた方の理由(複数回答)

- ・ コミュニティバスがよくわからないが4割強。
- ・ 必要なのか判断できないが約6割。

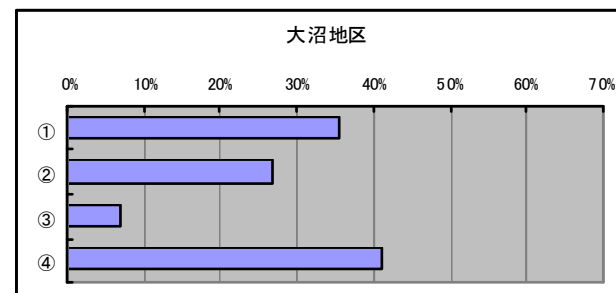
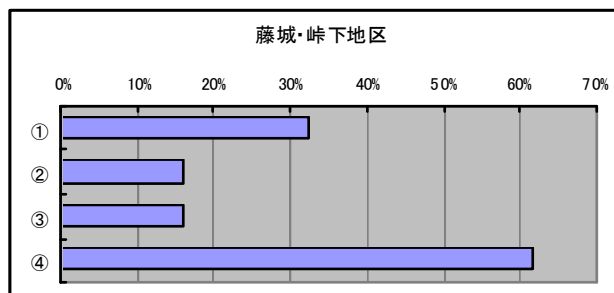
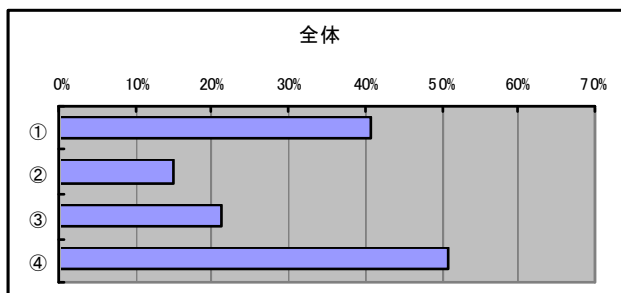
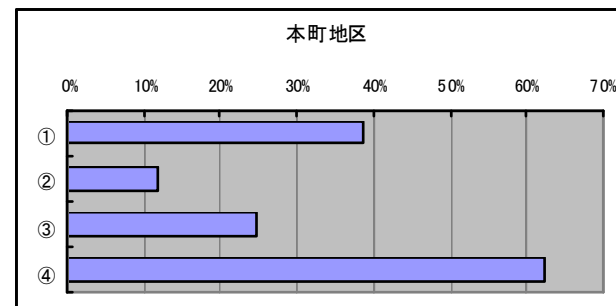
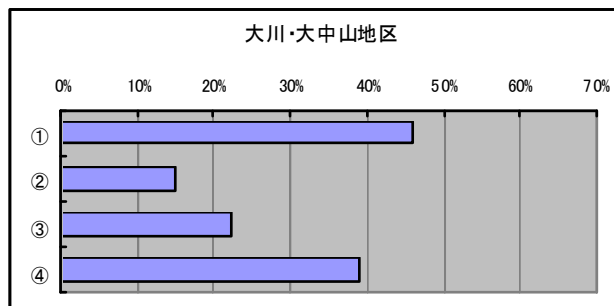
①	コミュニティバスがよくわからない
②	コミュニティバスは知っているが興味・関心がない
③	必要なのか、不要なのか判断できない
④	その他



## ■どのようなサービスの提供を望むか(複数回答)

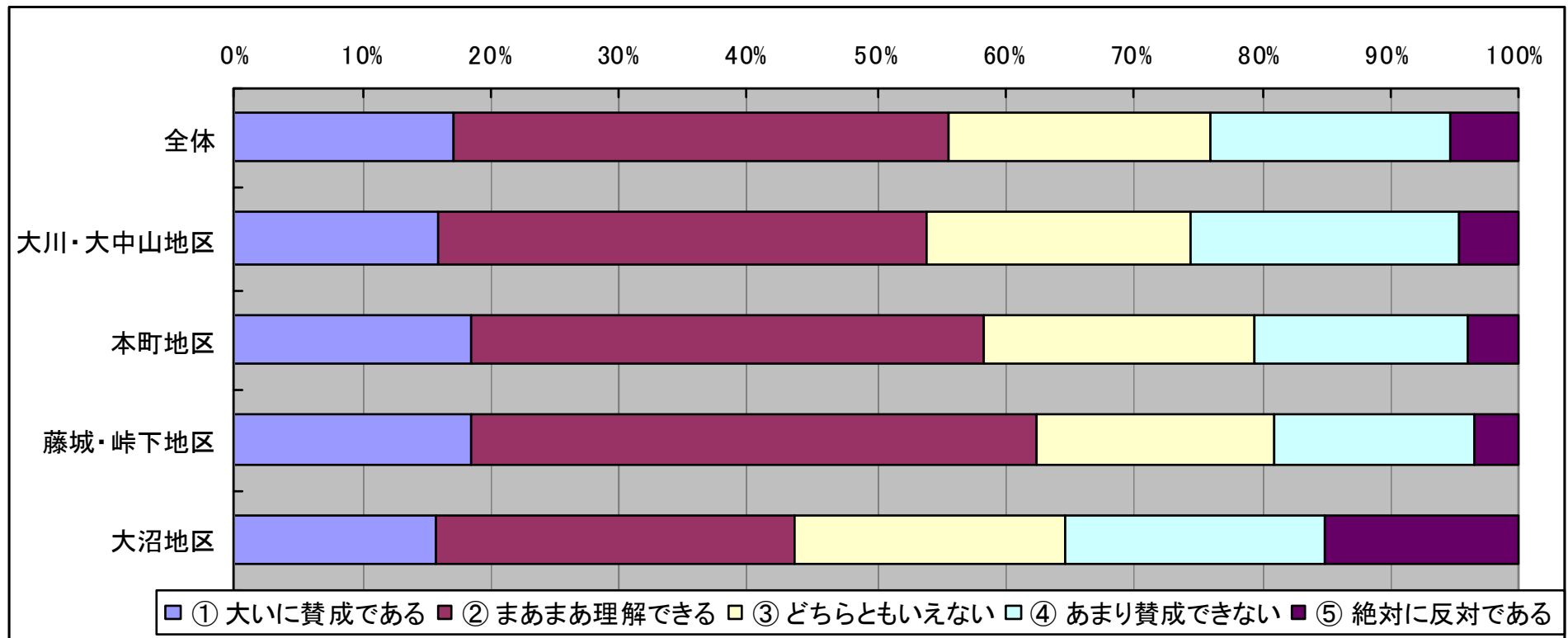
- ・ JR七飯駅周辺の循環バスへのニーズが5割強で最も高く、次いで地区内の循環バスへのニーズが4割強となっている。
- ・ 大沼地区は、幹線道路の充実・向上へのニーズが他の地区より高い。

①	地区内に限定し自宅付近や駅、バス停などを循環運行する交通サービス。 ※ここで言う地区とは「大川・大中山・中島周辺」「本町・鳴川・緑町周辺」「藤城・峠下・仁山周辺」「大沼・軍川周辺」とお考えください。
②	南北に走る幹線道路(国道5号線～道道大沼公園鹿部線)において、バス停の数を増やしたり、運行本数を増やすなど、幹線(背景)の交通サービスの充実・向上を図る。
③	幹線道路(国道5号線など)に交差して東西方向に延びる道路は坂道が多く、勾配がきついため、その東西方向を往復運行する交通サービス。
④	JR七飯駅周辺に点在する主要施設(役場・病院・銀行・スーパーマーケットなど)を定期的に循環運行するサービス。



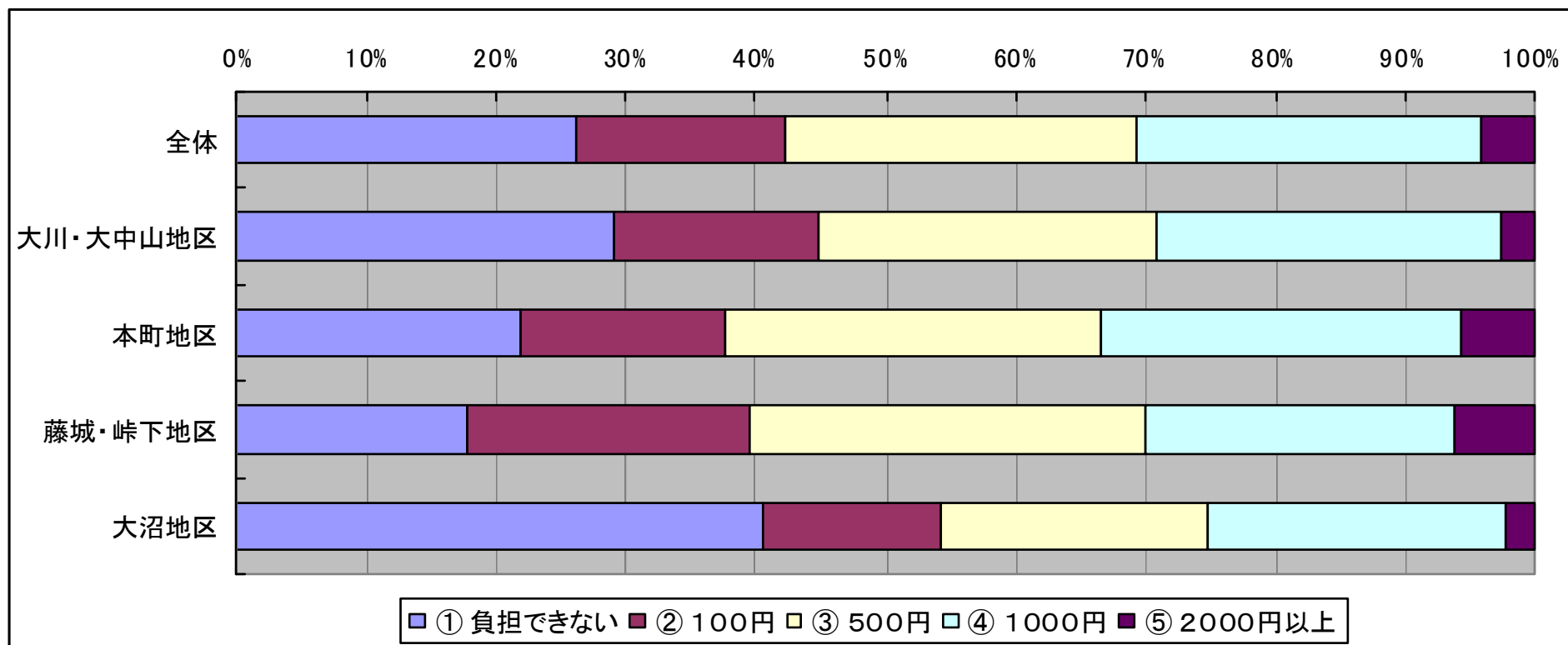
## ■費用負担について～補助金(税金)を捻出する～

- ・ 賛成派が5.5割である。
- ・ 大沼地区は、反対派が他の地区より多い。



## ■費用負担について～目的税を徴収する～

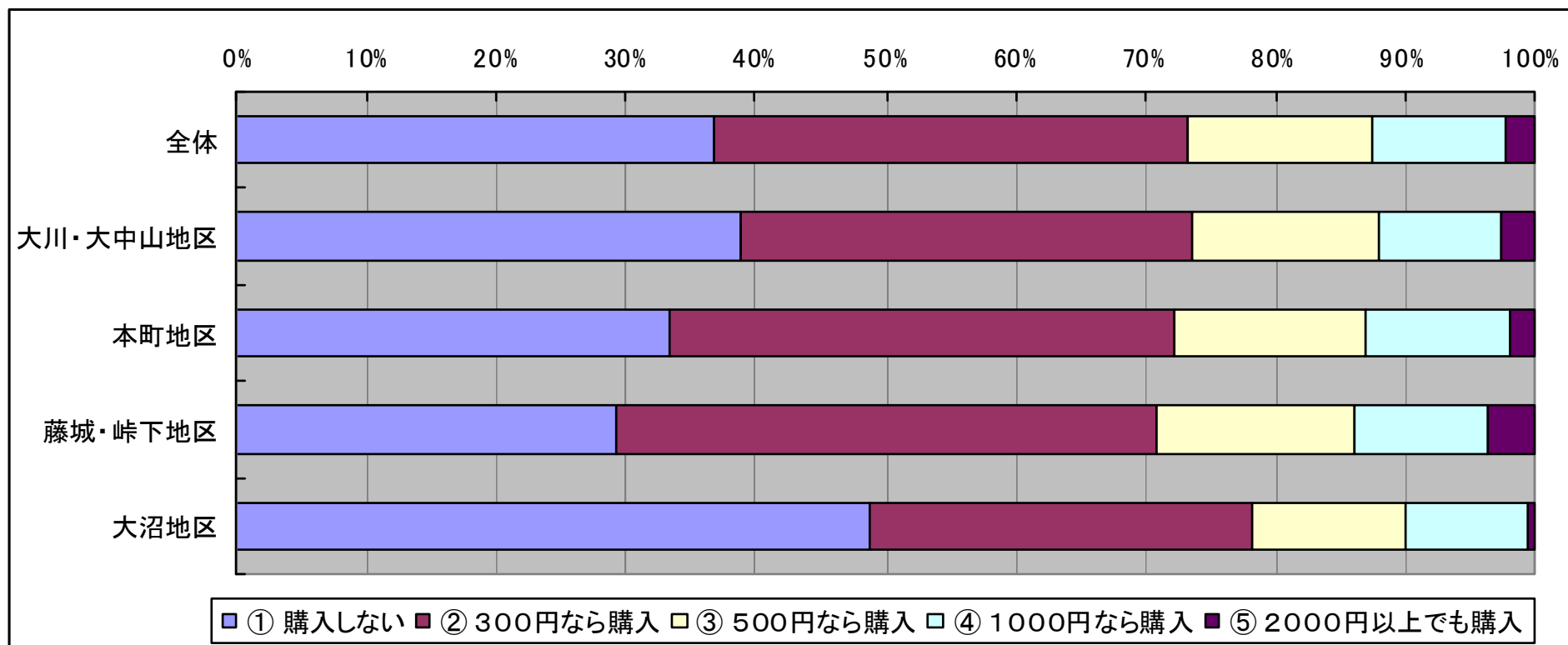
- ・ 負担できない方が2.5割である。
- ・ 年間500円、1000円なら負担してもよいがあわせて約5割である。
- ・ 大沼地区は、負担できない方が約4割と他の地区より多い。





## ■費用負担について～寄付金付記念切符の購入～

- ・ 購入できない方が4割弱である。
- ・ 300円なら購入してもよいが4割弱である。
- ・ 大沼地区は、購入できない方5割弱と他の地区より多い。



## ■費用負担について～町内会費として徴収～

- ・ 負担できない方が3割強である。
- ・ 年間500円、1000円なら負担してもよいがあわせて5.5割である。
- ・ 大沼地区は、負担できない方が5割弱と他の地区より多い。

